

ボーイスカウトの夏季キャンプ参加が生きる力、 リーダーシップ、および、自尊心に与える影響

The effect of participation in summer camp of Boy Scout on
IKIRU CHIKARA (zest for living), leadership and self-esteem

田中 優¹

¹大妻女子大学人間関係学部

Masashi Tanaka¹

¹Faculty of Human Relations, Otsuma Women's University
2-7-1 Karakida, Tama-City, Tokyo, Japan 206-8540

キーワード：ボーイスカウト、教育効果、組織キャンプ

Key words : Boy Scout, Educational effectiveness, Organized camp

抄録

本研究では、スカウト教育法の効果測定の可能性を確認することを主眼とし、ボーイスカウトの年間活動のメインイベントである夏季キャンプについて、11都県のボーイスカウト124名（男子：101名、女子：23名）を調査対象として、①生きる力、②リーダーシップ、③自尊感情、それぞれの変化について、キャンプの事前事後での比較を行った。その結果、夏季キャンプへの参加により、①生きる力、生きる力を構成する「心理的社会的能力」、「心理的社会的能力」を構成する「積極性」「視野・判断」が、また、②リーダーシップ、リーダーシップを構成する課題遂行機能と集団維持機能が、そして、③自尊心のそれぞれが向上していた。これらから、ボーイスカウト教育の2大教育制度である「班制度」と「進歩制度」は、生きる力やリーダーシップを高めることに寄与していることが示唆された。

1. 研究目的

90余年の長い歴史と大きな実績、また、更なる可能性を有する日本のボーイスカウト教育であるが、わが国におけるボーイスカウト教育の教育効果に関する実証的研究は少なく、ボーイスカウトの長期野営における体験活動の影響に関するもの（中野ら[1][2]）、および、短期のキャンプ訓練における体験活動の影響に関するもの（田中[3][4]）等がわずかにあるのみである。

本研究では、スカウト教育法の効果測定の可能性を確認することを主眼とし、ボーイスカウトの年間活動のメインイベントである夏季キャンプについて、そのキャンプの前後に調査を実施し、スカウトキャンプの教育効果を明らかにすることを目的としている。

本報告では、キャンプの教育効果の量的な側面について、夏季キャンプの参加による①生きる力、②リーダーシップ、そして、③自尊心、それぞれの変化について報告する。

2. 方法

2.1. 調査対象者

調査対象者は、11都県のボーイスカウト124名（男子：101名、女子：23名）であった。

2.2. 調査方法

調査は、4泊5日前後でおこなわれる夏季キャンプの参加前（事前調査：2016年6～7月）と参加後（事後調査：2016年8～9月）に、質問紙調査により実施した。

表 1. 調査協力スカウト数 (地方区・県別)

地方区	県	スカウト数
関東	東京	44
関東	神奈川	7
関東	千葉	7
関東	埼玉	7
中部	新潟	13
中部	福井	7
中部	愛知	9
中国・九州	山口	10
中国・九州	福岡	8
中国・九州	長崎	6
中国・九州	熊本	6
		124

2.3.調査内容

調査内容は、以下の通りである。

(1)ボーイスカウト活動について

①スカウト活動の楽しさ、②夏季キャンプへの期待 (事前調査のみ)・夏季キャンプの感想 (事後調査のみ)、③興味・自信のあるスカウト技能、④進級への意欲。

(2)「生きる力」:「IKR 評定用紙(簡易版)」(独立行政法人国立青少年教育振興機構[5])

「生きる力」を測定するために独立行政法人国立青少年教育振興機構が作成した 28 項目。「いやなことは、いやとはっきり言える」といった心理的社会的能力 (14 項目)、「自分かってな、わがままを言わない」といった徳育的能力 (8 項目)、「早寝早起きである」といった身体的能力 (6 項目) の 3 つの能力で「生きる力」を測定する (表 2)。各項目に対して、1:まったくあてはまらない、2:あてはまらない、3:あまりあてはまらない、4:少しあてはまる、5:よくあてはまる、6:とてもよくあてはまるの 6 件法で回答を求めた。

(3)リーダーシップ測定尺度(国立妙高青少年自然の家[6])

国立妙高青少年自然の家が開発した、青少年の学童期 (小学校高学年) に求められるリーダーシップ能力を測定する尺度。三隅[7]の「PM理論」を基に、「課題達成 (Performance) 機能」、すなわち、集団全体で何らかの目標を定めて、その目標に向かって成員を動機づけ、目標を達成させる機能を測定する 12 項目、および、「集団維持 (Maintenance) 機能」、すなわち、集団のメンバー同士のコミュニケーションを円滑にさせ、人間関

係を良好にし、結束させる機能を測定する 8 項目の計 20 項目からなる。20 項目は、「課題達成機能」と「集団維持機能」の 2 つの上位指標の下に、5 つの中位指標として、青少年のリーダー性を特定する要素 (資質・能力)、すなわち、「困難に自ら立ち向かおうとする力」「計画的に考え行動する力」「情報を収集し、創造力をもって課題を解決しようとする力」「役割を意識し、集団の規範を守る力」、そして、「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」の「リーダーシップ 5 つの力」に分けられる。さらに、5 つの中位指標をそれぞれ 2 つに分けた 10 の下位指標、すなわち、「意欲・自立性」「危機意識」「計画・判断」「省察・アクション」「情報収集」「想像力」「役割意識」「規範意識」「伝達・コミュニケーション」そして、「ユーモア・明るさ」から構成される (表 3)。各項目に対して、1:まったくあてはまらない、2:あてはまらない、3:あまりあてはまらない、4:少しあてはまる、5:よくあてはまる、6:とてもよくあてはまるの 6 件法で回答を求めた。

(4)自尊感情尺度(福岡県青少年アンビシャス運動推進室[8])

福岡県青少年アンビシャス運動推進室が、Rosenberg[9]の自尊感情尺度の項目を児童にもわかりやすい表現で翻訳したもので、肯定的な 5 つの設問と否定的な 5 つの設問からなる。各項目に対して、1:まったくあてはまらない、2:あてはまらない、3:あまりあてはまらない、4:少しあてはまる、5:よくあてはまる、6:とてもよくあてはまるの 6 件法で評定を求めた。

2.4.倫理審査

本研究は、大妻女子大学生命科学研究倫理委員会の審査による倫理審査の承認 (平成 28 年度 28-014) を得ている。

3. 結果

3.1.生きる力の変化

夏季キャンプへの参加前後で、生きる力の変化を検討するために、「IKR 評定用紙」の全項目の評定得点の合計を生きる力得点とした (28 項目、得点範囲は 28 点~168 点)。また、3 つの上位指標「心理的社会的能力」(14 項目、14 点~84 点)、「徳育的能力」(8 項目、8 点~48 点)、「身体的能力」

(6項目, 6点~36点), および, 14の下位指標「非依存」「積極性」「明朗性」「交友・協調」「現実肯定」「視野・判断」「適応行動」「自己規制」「自然への関心」「まじめ勤勉」「思いやり」「日常的行動力」「身体的耐性」「野外生活・技能」(各2項目, 2点~12点)について, 項目の評定得点の合計を算出し, 各指標の得点とした。

「生きる力」においては, 夏季キャンプへの参加前(116.0(SD=20.1))より参加(119.2(SD=21.4))の得点が有意に高かった($t(85)=2.48, p<.05$)。

「心理的社会的能力」は, 参加前(57.2(SD=11.2))より, 参加後(59.5(SD=11.5))の得点が有意に高

かった($t(89)=3.08, p<.001$)。「心理的社会的能力」の下位指標については, 「積極性」が, 参加前(7.9(SD=2.0))より参加後(8.4(SD=2.1))の得点が有意に高かった($t(104)=2.78, p<.01$)。項目では, “自分からすすんで何でもやる”が, 参加前(3.8(SD=1.1))より参加後(4.0(SD=1.1))の得点が有意に高かった($t(106)=2.26, p<.05$)。同じく, 下位指標の「視野・判断」が, 参加前(7.6(SD=2.0))より参加後(8.2(SD=2.0))の得点が有意に高かった($t(103)=3.37, p<.001$)。項目では, “自分で問題点や課題を見つけることができる”が, 参加前(4.0(SD=1.2))より参加後(4.4(SD=1.1))の得点

表2. 夏季キャンプ参加前後の生きる力得点の変化

生きる力・上位指標・下位指標・項目	事前調査		事後調査		t値	df	p	
	平均	SD	平均	SD				
生きる力	116.0	20.1	119.2	21.4	2.48	85	.02	
心理的社会的能力	57.2	11.2	59.5	11.5	3.08	89	.00	
非依存	8.4	2.1	8.6	2.0	1.02	103	.31	
	いやなことは、いやとはっきり言える	4.3	1.2	4.4	1.2	0.62	105	.53
	小さな失敗はおそれない	4.1	1.3	4.2	1.3	0.93	106	.35
積極性	7.9	2.0	8.4	2.1	2.78	104	.01	
	自分からすすんで何でもやる	3.8	1.1	4.0	1.1	2.26	106	.03
	前向きに、物事を考えられる	4.1	1.3	4.4	1.3	1.92	106	.06
明朗性	8.3	2.3	8.5	2.2	1.60	106	.11	
	だれにでも話しかけることができる	4.3	1.4	4.4	1.3	1.81	107	.07
	失敗しても、立ち直るのがはやい	4.0	1.3	4.1	1.4	0.68	107	.50
交友・協調	8.2	2.1	8.3	2.1	0.54	104	.59	
	多くの人に好かれている	3.6	1.3	3.7	1.3	0.79	105	.43
	だれでも仲よくできる	4.6	1.2	4.6	1.2	0.00	107	1.00
現実肯定	8.1	2.0	8.4	2.2	1.50	102	.14	
	自分のことが大好きである	3.5	1.5	3.6	1.5	0.85	105	.40
	だれにでも、あいさつができる	4.7	1.1	4.8	1.2	1.07	105	.29
視野・判断	7.6	2.0	8.2	2.0	3.37	103	.00	
	先を見通して、自分で計画が立てられる	3.6	1.2	3.8	1.2	1.72	105	.09
	自分で問題点や課題を見つけることができる	4.0	1.2	4.4	1.1	3.62	105	.00
適応行動	8.4	1.9	8.6	2.0	1.41	105	.16	
	人の話をきちんと聞くことができる	4.2	1.1	4.2	1.2	0.58	107	.56
	その場にふさわしい行動ができる	4.2	1.1	4.4	1.1	1.86	106	.07
徳育的能力	34.3	6.1	35.1	6.1	1.71	99	.09	
自己規制	8.2	2.1	8.4	2.1	0.72	102	.47	
	自分かってな、わがままを言わない	3.9	1.3	4.1	1.1	1.79	104	.08
	お金やモノのむだ使いをしない	4.3	1.3	4.3	1.4	0.49	106	.62
自然への関心	8.9	2.4	9.0	2.3	0.93	107	.36	
	花や風景などの美しいものに、感動できる	4.2	1.5	4.4	1.4	1.61	107	.11
	季節の変化を感じることができる	4.7	1.3	4.7	1.3	0.07	108	.94
まじめ勤勉	8.4	2.0	8.7	1.9	1.70	105	.09	
	いやがらずに、よく働く	3.7	1.2	4.0	1.2	2.69	107	.01
	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	4.7	1.0	4.6	1.0	0.78	106	.44
思いやり	8.7	1.9	8.8	2.0	0.95	106	.35	
	人のために何かをしてあげるのが好きだ	4.3	1.1	4.4	1.1	0.54	107	.59
	人の心の痛みがわかる	4.3	1.2	4.4	1.2	1.03	107	.31
身体的能力	23.6	5.3	24.3	5.5	1.89	102	.06	
日常的行動力	7.4	2.4	7.5	2.4	0.72	105	.47	
	早寝早起きである	3.6	1.5	3.9	1.4	1.74	106	.09
	からだを動かしても、疲れにくい	3.8	1.4	3.7	1.5	0.61	106	.54
身体的耐性	8.2	2.3	8.3	2.4	0.65	107	.52	
	暑さや寒さに、負けない	4.1	1.4	4.2	1.5	1.04	107	.30
	とても痛いケガをしても、がまんできる	4.1	1.3	4.1	1.4	0.00	108	1.00
野外生活・技能	8.1	2.3	8.6	2.1	2.54	103	.01	
	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	4.0	1.3	4.2	1.2	2.62	106	.01
	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	4.2	1.5	4.3	1.4	1.32	105	.19

が有意に高かった ($t(105)=3.62, p<.001$). また, 上位指標の「身体的能力」の下位指標である「野外技能・生活」が, 参加前 (8.1($SD=2.3$)) より参加後 (8.6($SD=2.1$)) の得点が有意に高かった

($t(103)=2.54, p<.01$). 項目では, “ナイフ・包丁などの刃物を, 上手に使える” が, 参加前 (4.0 ($SD=1.3$)) より参加後 (4.2($SD=1.2$)) の得点が有意に高かった ($t(106)=2.62, p<.01$).

3.2. リーダーシップ能力の変化

夏季キャンプへの参加前後で, リーダーシップの変化を検討するために, 「青少年の学童期 (小学校高学年) に求められるリーダーシップ能力を測定する尺度」の全項目の評定得点の合計をリーダーシップ得点とした (20 項目, 得点範囲は 20 点~120 点). また, 2つの上位指標「課題達成機能」(12 項目, 12 点~72 点) と「集団維持機能」(8

項目, 8 点~48 点), そして, 5つの中位指標「困難に自ら立ち向かおうとする力」「計画的に考え行動する力」「情報を収集し, 創造力をもって課題を解決しようとする力」「役割を意識し, 集団の規範を守る力」「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」(各 4 項目, 4 点~24 点), および, 10 の下位指標「意欲・自立性」「危機意識」「計画・判断」「省察・アクション」「情報収集」「想像力」「役割意識」「規範意識」「伝達・コミュニケーション」「ユーモア・明るさ」(各 2 項目, 2 点~12 点) について, 項目の評定得点の合計を算出し, 各指標の得点とした.

リーダーシップにおいては, 夏季キャンプへの参加前 (83.4($SD=14.9$)) より参加後 (86.7($SD=14.8$)) の得点が有意に高かった ($t(92)=3.03, p<.001$). また, 上位指標, すなわち, リーダーシップを構成する 2つの機能の 1つである, 目標を

表 3. 夏季キャンプ参加前後のリーダーシップ

リーダーシップ・上位指標・中位指標・下位指標・項目	事前調査		事後調査		t値	df	p	
	平均	SD	平均	SD				
リーダーシップ	83.4	14.9	86.7	14.8	3.03	92	.00	
課題達成 (Performance) 機能	49.1	8.9	50.7	9.0	2.27	100	.03	
困難に自ら立ち向かおうとする力	16.0	3.7	16.3	3.4	1.05	103	.30	
意欲・自立性	7.5	2.1	7.7	2.1	1.04	103	.30	
	人が嫌がることでも自分から進んで取り組むことができる。	3.8	1.2	4.0	1.2	1.91	106	.06
	すすんでお手伝いや勉強をすることができる。	3.7	1.3	3.7	1.2	0.25	104	.80
危機意識	8.4	2.1	8.6	1.8	0.66	106	.51	
	危ないことを予測して避けることができる。	4.2	1.3	4.3	1.1	0.53	106	.60
	その場の状況にあわせて考えることができる。	4.2	1.1	4.3	1.0	0.50	107	.62
計画的に考え行動する力	15.7	3.4	16.6	3.5	2.84	104	.01	
計画・判断	7.8	2.0	8.2	2.1	1.98	105	.05	
	決めた時間にあわせて行動することができる。	4.0	1.1	4.1	1.2	0.50	106	.62
	先のことを考えて行動することができる。	3.8	1.2	4.1	1.0	3.25	106	.00
省察・アクション	7.9	1.9	8.4	1.8	2.45	106	.02	
	内容を考えて話すことができる。	3.9	1.2	4.1	1.1	2.07	107	.04
	反省したことを次の行動や活動に生かしている。	4.1	1.1	4.3	1.0	1.92	106	.06
情報を収集し, 創造力をもって課題を解決しようとする力	17.3	3.5	17.6	3.4	0.82	107	.42	
情報収集	8.2	1.9	8.3	1.9	0.73	107	.47	
	物事をいろいろな方向から見るることができる。	4.1	1.1	4.1	1.1	0.07	107	.94
	わからないことは自分で調べることができる。	4.1	1.2	4.3	1.2	1.18	107	.24
想像力	9.2	2.1	9.3	1.8	0.61	107	.54	
	うまくいくようにいろいろな工夫をすることができる。	4.3	1.2	4.3	1.0	0.30	107	.77
	興味のあることにチャレンジしてみたい。	4.9	1.1	5.0	1.1	0.75	107	.45
集団維持機能 (Maintenance) 機能	33.8	7.2	35.2	6.6	2.89	98	.01	
役割を意識し, 集団の規範を守る力	16.9	3.8	17.4	3.6	1.86	101	.07	
役割意識	8.6	2.0	8.8	1.9	0.97	103	.33	
	自分がすべき役割をはっきりわかっている。	4.2	1.2	4.4	1.0	1.28	105	.21
	全体の目標にあわせて活動に取り組んでいる。	4.3	1.1	4.3	1.0	0.64	105	.53
規範意識	8.2	2.3	8.6	2.2	2.34	105	.02	
	ルールや約束を必ず守ることができる。	4.0	1.3	4.2	1.2	1.73	107	.09
	親や先生に言われなくても規則にしたがうことができる。	4.1	1.2	4.3	1.2	1.77	105	.08
集団内の人間関係を円滑にしようとする力	17.1	4.1	17.7	3.9	2.15	103	.03	
伝達・コミュニケーション	8.6	2.2	9.0	2.0	2.10	107	.04	
	困っている友だちがいたら励ますことができる。	4.4	1.2	4.6	1.1	2.15	107	.03
	友だちの立場に立って話を聞くことができる。	4.3	1.2	4.4	1.1	1.46	107	.15
ユーモア・明るさ	8.5	2.3	8.7	2.2	1.35	103	.18	
	明るく元気にあいさつや返事ができる。	4.7	1.2	4.7	1.2	0.65	106	.52
	場を和ますことができる。	3.8	1.3	4.0	1.3	1.69	105	.10

達成させるために計画を立てたり指示を与えたりといった「課題達成機能」は、参加前(49.1($SD=8.9$))より参加後(50.7($SD=9.0$))の得点が有意に高かった($t(100)=2.27, p<.05$)。さらに、「課題達成機能」の中位指標である「計画的に考え行動する力」は、参加前(15.7($SD=3.4$))より参加後(16.6($SD=3.5$))の得点が有意に高かった($t(104)=2.84, p<.01$)。そして、「計画的に考え行動する力」の下位指標である「計画・判断」が、参加前(7.8($SD=2.0$))より参加後(8.2($SD=2.1$))の得点が有意に高かった($t(105)=1.98, p<.05$)。項目では、“先のことを考えて行動することができる”が、参加前(3.8($SD=1.2$))より参加後(4.1($SD=1.0$))の得点が有意に高かった($t(106)=3.25, p<.001$)。同じく下位指標の「省察・アクション」が、参加前(7.9($SD=1.9$))より参加後(8.4($SD=1.8$))の得点が有意に高かった($t(106)=2.45, p<.05$)。項目では、“内容を考えて話すことができる”が、参加前(3.9($SD=1.2$))より参加後(4.1($SD=1.1$))の得点が有意に高かった($t(107)=2.07, p<.05$)。また、もう1つの上位機能である、集団の雰囲気を良くし、まとまりを維持・強化しようとする「集団維持機能」は、参加前(33.8($SD=7.2$))より参加後(35.2($SD=6.6$))の得点が有意に高かった($t(98)=2.89, p<.01$)。さらに、「集団維持機能」の中位指標である「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」は、参加前(17.1($SD=4.1$))より参加後(17.7($SD=3.9$))の得点が有意に高かった($t(103)=2.15, p<.05$)。そして、「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」の下位指標である「伝達・コミュニケーション」が、参加前(8.6($SD=2.2$))より参加後(9.0($SD=2.0$))の得点が有意に高かった($t(107)=2.10, p<.05$)。項目では、“困っている友達がいたら励ますことができる”が、参加前(4.4($SD=1.2$))より参加後(4.6($SD=1.1$))の得点が有意に高かった($t(107)=2.15, p<.05$)。

3.3. 自尊心の変化

夏季キャンプへの参加前後で、自尊心の変化を検討するために、「自尊感情尺度」の全項目の評定得点の合計を自尊心得点とした(10項目、得点範囲は10点~60点)。

自尊心については、夏季キャンプへの参加前(32.5($SD=8.2$))より参加後(34.0($SD=8.4$))の得点が有意に高かった($t(95)=2.95, p<.001$)。

表4. 夏季キャンプ参加前後の自尊心得点の変化

事前調査		事後調査		t値	df	p
平均	SD	平均	SD			
32.5	8.2	34.0	8.4	2.95	95	.00

4. 考察

4.1. 生きる力の変化

分析の結果、夏季キャンプ参加により、「生きる力」(28項目)は、参加前より参加後において、有意に向上していた。また、「生きる力」を構成する3つの上位指標、すなわち、「心理的社会的能力」、「徳育的能力」、「身体的能力」のうち、「心理的社会的能力」のみが有意に高まっていた。橘ほか[10]は、5泊から31泊の自然体験活動67キャンプ(事業)を対象に、キャンプ前後の変化量から参加者の「生きる力」への影響を検証し、①長期キャンプへの参加は、参加者の「生きる力」の向上に効果的であった。②長期キャンプの「生きる力」への効果は、「徳育的能力」よりも「心理的社会的能力」の側面により大きく働いたことを明らかにしている。本研究の結果は、橘らと同じ結果であり、キャンプ参加により、「生きる力」の「心理的社会的能力」が向上することが明らかとなった。

また、「心理的社会的能力」を構成する下位指標の「積極性」(“自分からすすんで何でもやる”“前向きに物事を考えられる”)や「視野・判断」(“先を見通して、自分で計画が立てられる”“自分で問題点や課題を見つけることができる”)といった能力が向上していた。ボーイスカウトでは、パトロールシステムとよばれる班制度を教育の重要な要素としている。すなわち、スカウトは、8名前後で構成される班を1つの単位とし、班の中心は班長であり、班長は次長と協力しながら、班の運営をおこなう。また、隊は3から4つの班により構成され、隊の活動は、各班長の合議制による班長会議(名誉会議)によりおこなわれる。このようなスカウト教育法の班制度が、スカウト達の自ら進んで、前向きにものごとを捉え、自分で問題点や課題を見つけて計画的にものごとをすすめるといった、「積極性」や「視野・判断」の能力を高めることに寄与したと考えられる。

また、上位指標の「身体的能力」を構成する3つの下位指標、すなわち、「日常的行動力」「身体的耐性」「野外生活・技能」のうち、「野外生活・技

能」のみが有意に高まっていた。ボーイスカウトのスカウト教育法においては、ロープ結び、ナイフ、火付けなど、野外活動において必要な技能をスカウトスキルとして、その習得を進歩制度の中心とし重視している。スカウトキャンプの参加前後において、「ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える」という項目が有意に高まったことから、スカウト教育法の進歩制度におけるスカウトスキルの習得が、「生きる力」の「身体的能力」を構成する「野外生活・技能」を高めることに寄与したと考えられる。

4.2. リーダーシップの変化

リーダーシップについては、夏季キャンプ参加により、リーダーシップ、および、リーダーシップを構成する「課題達成機能」と「集団維持機能」の2つの機能が、参加前より参加後において、有意に向上していた。さらに、「課題達成機能」については、「計画的に考え行動する力」が、また、「集団維持機能」については、「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」が、それぞれ有意に向上していた。

先述の班制度における班活動において、「計画的に考え」、「集団内の人間関係を円滑に」進めることは、無くてはならないスキルであり、スカウト教育法における班制度が、リーダーシップおよび、その課題達成機能と集団維持機能を高めたことが示唆される。

4.3. 自尊心の変化

夏季キャンプへの参加により、自尊心は、有意に向上していた。社団法人ガールスカウト日本連盟[11]による報告によれば、ガールスカウトの活動により「自己受容感」「自己実現力」「行動力」等が高まり、“ガールスカウト活動が「自己肯定感を高めるために有効である」と結論付けている。また、正親ら[12]は、中学1年生を対象とした組織キャンプにおいて、組織キャンプ体験が生徒の自尊感情及び信頼感に肯定的影響をもたらすことを明らかにしている。本研究の結果は、これらの結果と同様、スカウトキャンプが自尊心を高める効果があることを明らかにしているといえる。

5. まとめ

本研究の結果から、ボーイスカウトの夏季キャ

ンプに参加することには、以下の教育効果があることが明らかとなった。

生きる力への影響について

- ①スカウトキャンプは、「生きる力」の向上に効果的であった。
- ②生きる力の「心理的社会的能力」、特に、「積極性」と「視野・判断」の能力が向上していた。
- ③生きる力の「野外生活・技能」が向上していた。

リーダーシップへの影響について

- ④スカウトキャンプは、「リーダーシップ」、および、「課題達成機能」と「集団維持機能」の向上に効果的であった。
- ⑤「課題達成機能」については、「計画的に考え行動する力」が向上していた。
- ⑥「集団維持機能」については、「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」が向上していた。

自尊心への影響について

- ⑦スカウトキャンプは、スカウトの自尊心の向上に効果的であった。

スカウトキャンプの独自性について

- ⑧ボーイスカウト教育の2大教育制度である「班制度」と「進歩制度」は、生きる力やリーダーシップを高めることに寄与していることが示唆された。

謝辞

本研究の目的を理解し、調査実施に多大なご協力を賜りました全国の指導者の皆さんに、また、調査に協力してくれたスカウトに深く感謝申し上げます。彌榮。

付記

本研究は、大妻女子大学戦略的個人研究費（平成28年度 課題番号 S2829、および、平成29年度 課題番号 S2934）の助成を受けたものです。

引用文献

- [1]中野充ほか. 第22回世界スカウトジャンボリー(22WSJ)調査報告書—国際的な集団野外生活が青少年に与える影響—. 国立青少年教育振興機構調査研究報告書, 2012.
- [2]中野充ほか. 第16回日本ジャンボリー(第30

回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー)における事業成果把握に向けた参加者に及ぼす効果—国際的な集団野外生活が青少年に与える影響—

青少年教育研究センター紀要, 2014, 3, p.82-99.

[3]田中優. ボーイスカウトにおける体験活動が青少年に与える影響. 人間関係学研究: 社会学社会心理学人間福祉学: 大妻女子大学人間関係学部紀要, 2016, 17, p.1-14.

[4]田中優. ボーイスカウトにおける体験活動が青少年に与える影響2 —2014年および2015年度における継続調査による検討—. 人間関係学研究: 社会学社会心理学人間福祉学: 大妻女子大学人間関係学部紀要, 2017, 18, p.141-153.

[5] 独立行政法人国立青少年教育振興機構. 体験活動による「生きる力」の変容が見える! 「生きる力の測定・分析ツール」. 独立行政法人国立青少年教育振興機構, 2010.

[6] 国立妙高青少年自然の家. 少年期(高学年)のリーダーシップ想定尺度活用術.

<http://myoko.niye.go.jp/result/H23/leadership.pdf>,

(参照 2015-2-3).

[7] 三隅二不二. リーダーシップ行動の科学 有斐閣, 1978.

[8] 福岡県青少年アンビシャス運動推進室. 子どもの自尊感情と生活のあり方との関係についての研究. 福岡県青少年アンビシャス運動特別レポート. 福岡県青少年アンビシャス運動推進室, 2010.

[9] Rosenberg, M. Society and the adolescent self-image. Princeton, NJ: Princeton University Press, 1965.

[10] 橘 直隆ほか. 長期キャンプが小中学生の生きる力に及ぼす影響. 野外教育研究, 2003, 6(2), p. 1-12.

[11] 社団法人ガールスカウト日本連盟, 平成20年度 文部科学省委託事業 青少年元気サポート事業 少女のための元気サポートプロジェクト [報告書] 少女の自己肯定感を高めるキャンプ, 2009.

[12] 正親秀章ほか. 組織キャンプ体験が生徒の自尊感情と信頼感に及ぼす影響. 宇都宮大学教育学部教育実践紀要, 2016, 2, p.235-238.

(受付日: 2018年5月2日, 受理日: 2018年6月14日)

田中 優 (たなか まさし)

現職: 大妻女子大学人間関係学部教授

関西大学大学院社会学研究科社会心理学専攻博士課程後期課程修了. 博士 (社会学) (関西大学).

専門は社会心理学. 現在は, 対人関係, 特に, 親密な対人関係における互惠的相互依存関係に関する理論研究, および, 実践研究. また, ボーイスカウトの教育効果に関する研究を行っている.

主な著書: 対人心理学の視点 (共著, ブレーン出版)

心理測定尺度集 I (共著, サイエンス社)

図とイラストで読む人間関係 (共著, 福村出版)

援助とサポートの社会心理学 (共著, 北大路書房)

被服行動の社会心理学 (共著, 北大路書房)

あのととき, 避難所は (共著, ブレーン出版)